

# 第15回佐野市男女共同参画に関する 標語・作文表彰

令和2年2月8日(土)、第15回佐野市男女共同参画に関する標語・作文表彰式が田沼行政センター大会議室で行われました。

次世代を担う子どもたちに男女共同参画について理解を深めてもらうため、毎年市内の小学5・6年生を対象に男女共同参画に関する標語・作文の募集を行っており、今回で15回目を迎えます。市内から標語、作文を合わせて115作品の募集があり、選考の結果、最優秀賞・優秀賞作品の受賞者に表彰状と記念品が贈られました。また、標語の部と作文の部のそれぞれ最優秀賞作品に選ばれた児童が作品を発表しました。受賞された、皆さんおめでとうございます。

応募いただいた標語と作文を「第15回佐野市男女共同参画に関する標語・作文作品集」として冊子にまとめました。作品集は、男女共同参画推進センター(パレットプラザさの)や市内の地区公民館等でご覧いただけます。ぜひ小学生の皆さんの優れた作品をお読みください。

標語の部の最優秀賞、優秀賞に  
選ばれたみなさん



作文の部の最優秀賞、優秀賞に  
選ばれたみなさん



☆ 最優秀賞作品 ☆

標語の部

分け合おう 家事も育児も 幸せも

天明小五年 阿部 彩奈さん

作文の部

二人一人のよさを生かした社会に

葛生南六年 相澤 碧さん

私の母は、私たち兄弟が小さいころから、一人で私たちを育ててくれています。いわゆるシングルマザーです。母は、毎日、夜遅くまで働いているので、家の仕事は、私たち兄弟でやるようにしています。例えば、一番上の兄は夕ご飯の準備をする、姉はお風呂の用意をする、一つ上の兄と私は、ふとんをしいたり、一番上の兄が作った夕ご飯を運んだりするなど、兄弟四人で分担しています。これが、私の家族の「当たり前」です。

私たちにとって、当たり前のことですが、これを友達に話すと、友達からは、「そんなことはしないよ。碧はえらいね。」と言われます。友達の家では、私たち兄弟が分担している仕事のほとんどを、お母さんがやっているそうです。友達のお母さんも、私の母のように働いているのに、べつとしてみんなで協力しないのだからと、とても不思議に思います。お母さんが帰ってくる前に少しでも家の仕事をしてあげば、お母さんはとても喜ぶのになと思います。

たしかに、私も小さいころには、家の仕事をするのがいやだなと、

と思うことがたくさんありました。また、運動会や授業参観にお父さんが来てくれる、友達の家庭をうらやましく思うこともありました。でも、家や職場で母の働く様子が分かるようになって、そのよさを感じられるようになりました。

私の母は、家のことは何でもできます。高い天井の電球をかえたり、こわれたものの修理をしたりすることも、自分でできてしまいます。こわれたものの修理は、危なそうな道具を使うこともあるので、「大丈夫かな。」と心配になるところがあります。友達の家では、このようなことは、お父さんがしているそうです。また、母の仕事は、重たいものも運ばなくてははいけません。ときどき、うでや足にあざをつくってくることもあるので、「無理していないかな。」と心配になります。

性別によつて、やる仕事に分けられるわけではないので、どんな仕事もできることが理想だと思います。でも、仕事の内容によつては、不向きな仕事もあると思います。

私のクラスでは、調理実習などをすると、男子の方が手際よく調理をすることができます。女子は、調理には時間がかかりますが、片付けは早く終わります。仕事とは少しちがうかもしれませんが、得意、不得意も、作業のしやすさに関わってくるのだと思います。

「男女平等」という言葉が使われるようになり、男性も女性も、性別に関わりなく同じような働きを求められる場面が増えたと聞きます。でも、本当の男女平等は、一人一人が得意なことを生かして、互いに助け合いながら生きていくことではないかと思います。私たち兄弟が家の仕事を分担しているように、仕事を上手に分担して、みんなが気持ちよく暮らせる世の中になるといいなと思います。